アジアのことばを学ぶ ㉔

シリーズから『小渓』『ムルキョル』へ

94年から高校中国語教育の実践を紹介してきたこのシリーズは97年から韓国朝鮮語教育についても紹介してきましたが今回をもって終了させていただきます。

このシリーズの前身「高等学校の中国語教育の現場から」は、22号(1994年3月発行)から始まりました。当時、中国語教育に取り組む高等学校は約150校、高等学校総数の2.8%とわずかでしたが、中国語担当教員の全国組織もすでに活動を始めていました。

94年度に実施した高校中国語教育実態調査とその後の取材を通じて、学校あるいは教師の取り組みと現場が抱える課題が私たちにも次第に明らかになってきました。それを読者のみなさんに伝えたい、シリーズ誕生の背景にはそんな思いがありました。97年度に中国語教育の第2回調査とともに韓国朝鮮語教育について実態調査を開始しましたが、これに伴い、タイトルを「日本の高等学校におけるアジア言語教育の現場から」に、さらに98年度には「アジアのことばを学ぶ」に改め、二つのことばの教育事情を伝えてきました。

アジアのことばに取り組む高等学校

シリーズ第1回で取り上げた大東文化大学第一高等学校が中国語教育に取り組み始めたのは74年、すでに25年以上に及んでいます。94年からは北京への修学旅行が始まり、これを一つの目標に、2年生全員が中国語を学習しています。新シリーズの初回となった35号(97年7月発行)では、第二外国語として中国語とハングルを同時開講した都立日比谷高等学校と西高等学校を紹介しました。二つのことばを同時に導入する学校は、80年代後半から多く見られるようになりました。

関東国際高等学校のように、中国語や韓国語のコースを設置し、二つのことばを第一外国語としている学校もあります。また、兵庫県立神戸甲北高等学校では、在日外国人教育の視点から、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語、インドネシア語に取り組んでいます。

99年度現在TJFが確認している二つのことばに取り組んでいる高等学校の数は、中国語は380、韓国朝鮮語は170を超えています。シリーズで紹介したのは、ほんの一部に過ぎませんが、地域、導入の時期や背景、学習目標、履修形態など、それぞれが一様でないことをお伝えできたと思います。

TJFの取り組み

「アジアのことばを学ぶ」は今号をもって終了しますが、この6年間に広がったネットワークを通じて集まってくる情報は、今後もTJFのホームページや中国語教師向けの情報誌『小渓(せせらぎ)』や高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの会報『ムルキョル(なみ)』を通して、みなさんに伝えられると思います。TJFは、教員をはじめ関係者と連携しながら、右記のようなプログラムを中心に、中国語と韓国朝鮮語教育をサポートする事業を推進していきたいと考えています。

本シリーズで紹介した高等学校ほか

(地域別、掲載順、[ ]内シリーズ回数)

埼玉県	慶應義塾志木 [7]
	県立伊奈学園総合 [9]
	自由の森学園 [14]
千葉県	県立成田国際 [2]
	県立幕張総合 [17]
東京都	大東文化大学第一 [1]
	関東国際 [4]
	都立日比谷 [13]
	都立西 [13]
神奈川県	県立外語短大付属 [12]
	県立六ツ川 [23]
静岡県	県立静岡中央 [5]
石川県	県立金沢辰巳丘 [10]
福井県	敦賀気比 [8]
	県立足羽 [11]
愛知県	東邦 [6]
兵庫県	県教育委員会主催中国語講座 [16]
	県教育委員会主催ハングル講座 [16]
	県立神戸甲北 [22]
鳥取県	県立青谷 [15]
佐賀県	県立佐賀商業 [3]
	県教育委員会 [18]
鹿児島県	県立鹿児島東 [20]
全国ネット	高等学校韓国語教師研修会 [19]
	『小渓』と『ムルキョル』[21]

TJFの中国語・韓国朝鮮語教育プログラム

中国語教育

高校中国語教育のための写真教材

中国語を学習しながら中国理解を深めることを目的とした、中国の中高校生の生活を紹介する写真教材(写真シートと教師用マニュアル)を制作する。マニュアルには、文化項目と「高校中国語教育のめやす」が定める文型と単語を使った会話例を盛り込む。

高校中国語教師向け情報誌『小渓』

年4回発行の『小渓』の誌面を通じて、中国・中国語(教育)について教師同士の意見の交換を図るとともに、授業の実践例、中国との交流のノウハウなどの情報の提供をめざす。

日中友好クラス交流

中国の日本語教師と日本の中国語教師の橋渡しをし、ことばの学習と交流を結びつける。生きたことばの学習を通じて、生徒の学習意欲を高めるだけでなく、お互いの理解を深めることをめざす。

韓国朝鮮語教育

高等学校韓国語教師研修会

8月に第3回高等学校韓国語教師研修会を韓国文化院と共催する。運営の主体は高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(本誌45号で特集)。韓国の高校で日本語教育に携わっている教師(国際交流基金の招聘事業で来日予定)との交流プログラムの実施も検討している。

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク

ネットワークの各地域ブロック交流会やプロジェクトチームの活動★注を積極的にサポートする。

★注:
西日本ブロック:高等学校における韓国朝鮮語学習のめやす作成
南日本ブロック:メーリングリストの運営
東日本ブロック:高校生のための基本単語500選定など